

二〇一七年度学士論文題目

清代前半期における滿漢併用制
— 漢軍旗人の位置をめぐって —

田村文美子

二〇一七年度修士論文題目

雲南における普洱府の形成と発展
清代における雲南の義塾について
元代雲南出鎮宗王の意義

葛 君言
杜 銳
姚 嗣豊

— 雲南政局への影響を中心に —

二〇一八年度名古屋大学東洋史研究大会報告

雲南南部に対する清の認識

加藤久美子

— 18世紀前半の車里に対する認識を中心として —

編集後記

本年度も『名古屋大学東洋史研究報告』をお届けすることができました。まずはこの場を借りて、ご執筆くださった皆さま、編集にご協力くださった皆さまに厚く御礼申し上げます。

ご承知の通り、近年の大学をとりまく環境は厳しさを増し、その影響は確実に本会にも及んでいます。こうしたなか、今号ははじめて、これまで院生主体で進められてきた編集体制を見直し、院生・OB・教員の三者による全員野球で臨んだ一号となりました。

果たして、それが功を奏したのか、今号に例年以上の多くの力作を掲載できたことは、編集子がひそかな喜びとするところです。

どうか今後とも変わらぬご支援・ご協力のほど、なにとぞお願い申し上げます。

(土屋)